＜参考＞

「中間のまとめ」に寄せられた市民意見に対する検討結果一覧

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
1	もう少し、教育の場で戦争体験者や被爆者の話を聞く場を、平和教育に力を入れていただきたく思うがいかがか。	2-12において、戦争や原子力の脅威にさらされず、市民が安全で平和に暮らせる社会を目指しています。 また、ご意見も踏まえ、3-4提案7に「平和教育」を加えました。
2	防災面から災害時に断水してしまった時に水が湧き出している場所の情報提供をする必要も高いと考えられるがいかがか。	ご意見も踏まえ、4-12提案2に災害時の水源に関する記述を盛り込みました。 また、湧水については、6-8の記載のとおり、同様の点を重視しています。また、防災時に活用できるよう6-8提案4のとおり提案しています。
3	(1)電線などの長寿命化ときれいな街をつくるためにも、「電柱の無柱化をはかる」ことを提案する。	(1)4-4提案7の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(2)住宅建設の申請時などの指導により、電気、電話、水道、ガスなどの配管や配線などをパネルに集中設置することで「住宅のインターフェイスを1か所にする」ことを提案する。	(2)4-4提案7を検討する際の参考としましたが、具体的な提案までは至りませんでした。
4	(1)保育園の充実、病気の時の保育環境の充実、教育のレベルアップなど、企業に勤める人や若い人たちが働きやすく、子どもに魅力ある教育を提供できるようにするべきではないか。	(1)2-8、2-10、3-1から3-8までの記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(2)今後何十年後かには新幹線の停車駅が相模原になることから、その際八王子駅が要となるために、八王子駅周辺の環境整備として、JRと京王線の一本化などをはかるべき。また、京王線、八高線の整備に本腰を入れて市が乗り出すべき。	(2)4-7提案1、5の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(3)そごう撤退の空洞化を防ぐためにも駅の外に出なくても買い物ができたり、電車に乗らなくても買い物ができるようすると、高尾山からの帰路の観光客も途中下車して気軽に中心部に立ち寄れるのではないか。	(3)いわゆる「駅ナカ商業施設」については、検討の参考としましたが、5-4の記載のとおり、「高尾山登山客の市内各地への還流が必要」という活性化の方向がより重要であると考え、反映はしていません。
	(4)100周年のキャラクターはどこでもやっているのであまり賛成できないが、やるのであれば何か八王子らしく工夫をしてほしい。	(4)3-12提案2の記載のとおり、同様の点を重視しています。
5	特別支援と子どもたちの教育環境を充実してほしい。	3-2の記載のとおり、同様の点を重視しています。
6	(1)読みやすく、理解しやすくするためには、文章の形式の統一も必要ではないか。	(1)市民会議では、”読みやすく、わかりやすい”素案づくりを目指し、最終素案作成に向け参考にしました。
	(2)定性的記述に終始せず、定量的に言及する部分があっても良いのではないか。	(2)ご意見も踏まえて、目標の定量化が適した提案は、定量化に努めました。具体的には、5-13提案2、6-1、6-2などでその工夫をはかっています。
	(3)総論・各論、各論のみといったバラバラな記述がなされており、読みづらい。	(3)素案は、総論、各論の構成に統一しています。
	(4)中間まとめの段階であっても、市民会議のメンバーによる産・官・民への説明会の開催があっても良いのではないか。	(4)幅広い市民意見を踏まえて素案を作成するため、事前の市民アンケートの活用や市民代表の市議会議員との意見交換会を開催しています。
7	(1)「中間のまとめ」には、全体のコンセプトとなる基本方針や全体を要約した趣旨がない。八王子市の現状を踏まえて将来構想を端的に明記する必要はあると思うがいかがか。	(1)素案には、基本理念を明記しています。
	(2)市(行政)は広報活動に全力を傾けるべきであり、市民に情報を発信し続けることが重要である。	(2)ご意見も踏まえ、全般にわたり、「情報発信」の視点を盛り込んでいます。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
8	(1)幸福度ナンバーワンを目標に掲げているが、個々の感性が多様であり、具体性に欠けていると感じる。幸福度の現状、10年後の目標、その対象者層など、具体的にしないと把握が難しいのではないか。	(1)幸福度については、1-1で幸福度の調査・検証などをおこなう研究機関の設置を提案しています。また、市民を対象とした幸福度調査や調査の分析・検証結果に基づく意見交換会なども提案しており、これらの取組みの中で具体化をはかっていくものと考えています。
	(2)ニーズはますます多様化しているが、現場に近いところで、把握することは大切。そのために、新しい組織の設置だけでなく、学校や町会など、既存するコミュニティの有効活用も考えるべきではないか。	(2)協働の担い手としては、既存のさまざまなコミュニティの活用やそれらをつなぐネットワークのしくみなども考慮して提案しています。
	(3)教育現場への家庭の参画のあり方などの意見集約も必要ではないか。	(3)ご意見も踏まえ、3-6提案4、5、3-7あるべき姿、提案1において「家庭の学校への参画」に言及しました。
	(4)教育現場で、すぐにできる判断は独自にできる環境も検討してほしい。	(4)ご意見も踏まえ、3-7提案1において「学校運営協議会の全校設置」に言及し、裁量権の確保をはかりました。
	(5)6-3-3-4という枠にとらわれない学校の増加も必要ではないか。	(5)ご意見も踏まえ、3-1提案1において「妊娠から18歳までの一貫支援」に言及しました。
	(6)企業がおこなっている各種活動を学校教育に積極的に活用するべき。	(6)ご意見も踏まえて、3-4提案4、5、9、3-7提案5、8において「ボランティア促進や企業人による教育」を盛り込みました。
9	将来の人口減などを考慮するならば、総花的な抽象的なプランは困難ではないか。また、6分科会の議論が重複していないか。もう少し、プランを取捨選択し、実現可能な要素を検討してはどうか。	重要であると考えた施策の重複分野については、分科会間での調整を行い、わかりやすく集約しました。例えば、エネルギーに関しては、産業と環境の側面で記述するなど配慮しました。 また、検討においては、発想を抽出することが、市民会議の価値であると考え、議論を展開していきましたが、その際、実現性も考慮しながら進めていきました。
10	幼いうちから、「社会貢献」に馴染んでもらうことはとても重要なことではないか。	2-15の記載のとおり、同様の点を重視しています。また、6-12提案6においては、子どもの頃から地域や家庭において実体験による清掃マナーの向上を提案しています。
11	(1)地域の活性化のために、コミュニティ・カフェなどを開設するだけでは不十分だと思うがいかがか。	(1)住民自治によるまちづくりを推進していくために、例えば1-3のとおりさまざまな手法を提案しています。
	(2)高齢化に伴う買い物弱者に対し、企業が担い手となって移動販売車による支援をされてはどうか。	(2)2-24提案6の記載のとおり、同様の点を重視しています。
12	「健康相談や産科・救急医療体制の整備」をうたっていますが、何処を想定していますか。	健診・検診体制の整備については2-21に、医療体制の整備については2-22で具体的に提案しております。市民だれもが「あるべき姿」の項目で記載するような環境で暮らせることを目指しています。
13	(1)甲州街道の街なかギャラリーを商店街の協力を得て、ショーウィンドウを借りる、あるいは街なかに展示スペースを別につくり、小学生の絵を美術系の大学などの協力を得ながら展示してはどうか。	(1)検討の参考としましたが、「街なかでの絵画の展示」は、すでに八王子駅前地下のスペースで実施されていることもあり、反映しませんでした。しかし、中心市街地の活性化については、5-6提案6の記載のとおり、同様の点も重視しており、検討の参考としました。
	(2)市中に潜在する宝(人の力)は活かしていってはどうか。	(2)同様に重視しており、シート全般にわたって盛り込んでいます。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
14	(1)教育の現場では手が足りない感じがする。また、教員のレベルアップには時間的ゆとりが必要ではないか。	(1)3-1提案3、5、6、3-2提案3、6、3-5提案1、8、9の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(2)家庭の教育力をあげるための講座などがあると良い。また、親ももっと学校に関わっていくのが良い。	(2)ご意見も踏まえ、3-6提案1、2、4、5、3-7提案7において「家庭の学校への参画」に言及しました。
	(3)「大学が多い」メリットを活かし、大学生の力を利用できたら良いと思う。	(3)1-2提案10の記載のとおり、「大学との連携」を同様の点に立って重視しています。
	(4)地域文化や芸術を小学校で学ぶ時間があっても良いのではないか。	(4)3-14提案2の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(5)新しい市歌は、郷土愛のあるファンキーモンキーベイビーズの方々にお願いしてほしい。	(5)3-12提案1を検討する際の参考としました。
	(6)あまりお金をかけないで市内の美術系の学生から「ゆるキャラ」などのデザインを募集したらどうか。	(6)ご意見も踏まえて3-12提案2の課題として「大学、企業の参画」を盛り込みました。
15	休憩場所、夕食の食材の買物などができる「山の駅」を実現し、観光客の流れをつくってみてはどうか。	4-1提案2の記載のとおり、同様の点を重視しています。また、高尾山の活性化策としても、5-4提案3の記載のとおり、同様の点を重視しています。 その他にも、里の駅、街の駅、川の駅など、地域の多様性を活かした「地域の駅構想」を提案しています。
16	(1)福島第一原発事故以来、新鮮・安全な農畜産物を提供する地産地消を推進することが市民生活にとって重要となってきているとはいえないだろうか。	(1)5-8、5-11提案4、6、6-11提案5の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(2)東京都により既にブランド化されているTOKYO-X(豚肉)、東京シャモ(鶏肉)、東京烏骨鶏(卵)を基本的に利用した美味、安全性、安心、価格などを目玉とした畜産物およびそれらの加工品の地域ブランド化を目指してはどうか。	(2)5-11の記載のとおり、同様の点を重視しています。なお、ご意見を踏まえ、具体的には5-11提案2に「新食材」として「ワニ・ダチョウ・アワビの飼育」を加えました。
	(3)将来を担うやる気のある畜産者が核となった法人を設立し、広大な八王子市内で周辺住民に迷惑のかからない規模の、国および東京都などの諸制度を十分活用した畜産公害防止施設を完備した畜産基地を適地に設けたらどうか。	(3)ご意見を踏まえ、5-9提案3に「糞尿などの処理と再利用のための施策づくりと施設設置の支援」として加えました。
	(4)地域ブランドの確立には、市内での生産から販売までの流れを巧みに利用できるのではないか。	(4)5-7、5-9、5-11の生産から販売までの関わりを検討する際の参考としました。
	(5)畜産業の発展には必ず各種疾病のことも考慮する必要があり、万が一のことを考えて東京都(家畜保健所)との連携が重要になる。また、市内の動物用医薬品メーカーの協力をお願いしておくことも必要ではないか。	(5)ご意見を踏まえ、5-9提案4、6に「防疫、疫病」を加えました。
17	みどりを守る、里山の自然を保全すると書いてありますが、「物流施設」や「北西部幹線道路」などの計画があり、地元住民に十分な説明がされていない。地元住民の意見をもっと聞いてほしい。	6-3提案2の記載のとおり、同様の点を重視しております。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
18	(1)水資源が豊富な八王子市は、再生可能エネルギーの宝庫ではないか。例えば、数10kwから数100kwの小水力発電所を建設し、可能な限り地域が活性化するように実施。稼働後は、電力を地域内で販売すれば、経済活性化策にもなると思うがいかがか。	(1)小水力発電と自然エネルギーの地産地消については、6-1の記載のとおり、同様の点をに重視しています。また、5-13でも記載のとおり、同様の点を重視してます。
	(2)例えば湧水の公園など、車いすの人でも、自由に参加でき、そうした人たちがもつ知恵や経験を若者に伝えるなど交流の場となる空間があると良いと思うがいかがか。	(2)2-12提案2において誰もが利用できる世代間交流の場づくりを提案しています。また、湧水の大切さや人々に安らぎをもたらす効果については、6-8の記載のとおり、同様に重視しています。
	(3)かつて、地域住民が気軽に立ち寄った共同井戸や水洗い場のような、交流する場所が必要ではないか。	(3)1-3提案7では、井戸端会議的な場を設けることが重要であるとの認識から、小さいコミュニティごとの交流の場(例:コミュニティ・カフェなど)を提案しています。
	(4)地域エネルギーシステムの地産地消による地域活性化と新たな雇用創出をはかるべき。	(4)4-1提案5、5-13の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(5)ごみの3Rを進めて5Rへ展開してはどうか。(5Rとは、3R(リデュース、リユース、リサイクル)にリフューズ(ごみになるものを拒否)、リペア(修理しながら長く使用)を加えたもの)例えば、1回使用の製品の禁止や、コンビニの包装袋のマイバック化または有料化、CSR(企業の社会的責任)の徹底などが挙げられる。いかがか。	(5)6-12ではごみゼロのまちを目指した提案をしています。この提案を検討した際に、「ごみの5R」についてのご意見を参考にしました。
	(6)武田信玄息女松姫さまの崇高な生き方を、魅力的に再現し、地域活性化を促進してはどうか。	(6)3-14提案5の記載のとおり、「八王子に縁の深い歴史上の人物の足跡に学ぶ」の検討の参考としましたが、松姫に特化した歴史道を提言するには至りませんでした。
	(7)環境産業の創出、市営の水力発電会社の設立を考慮に入れた若者の育成に取り組まれたらいかがか。	(7)5-13の記載のとおり、同様の点を重視してます。
19	市の施設を改築して、子どもたちに見せたい人形劇や大人にも楽しめるようなちょっとした映画を低料金で鑑賞できたり、学習し合えたりする場所ができると良いと思うがいかがか。また、その管理はシルバーの方にお任せするというのはいかがか。	施設の管理など多様な担い手については、1-2、1-3などで、さまざまな団体が担い手となり協働することや、幅広い年代が協働しやすいしくみづくりもあわせて検討し、提案しています。 2-16では、高齢者や障害者にとっての生きがいとしての就業の支援について、同様の点を重視した提案をしています。 特定の劇団をクローズアップした施策の策定は、その団体への理解度の問題もあり、提言するには至りませんでした。しかし、2-9および2-11で地域コミュニティの中で学びあう子育ち環境の構築を提案しています。
20	(1)すべての小学校にスクールカウンセラーを配置してほしい。	(1)ご意見も踏まえ、3-1提案8に「スクールカウンセラーの全校配置」を盛り込みました。
	(2)保育園、幼稚園の段階での発達相談を、観察、診断、相談を含めてすべての園で実施できるようにしてほしい。	(2)2-8提案8、9や3-2提案2、3-6提案6の記載のとおり同様の点を重視しています。
	(3)学校サポーターの配置をより積極的に進めてほしい。	(3)ご意見も踏まえ、3-1提案5、6、3-2提案3に「学校サポーターの充実」を盛り込んでいます。
	(4)原発問題が注目される中、世界遺産でもある広島修学旅行は大いに学べるものがあることから、修学旅行費用の負担を軽減するため、援助金を復活してほしい。	(4)ご意見も踏まえ、平和教育の観点から3-4提案7に「広島への修学旅行」の実施については盛り込みました。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
21	(1)幸福度ナンバーワンについて具体的に教えてほしい。	(1)1-1に具体的に記載していますのでご覧ください。
	(2)地域に根ざして行動できる職員の育成について具体的に教えてほしい。	(2)1-2提案5、1-8提案2に具体的に記載していますのでご覧ください。
	(3)受益者負担を再検討して、財源を発見するとあるが、利用料を値上げするということか。市民活動への参加を広げていくという目的に反するのではないか。再検討してほしい。	(3)1-9提案5の記載のとおり、「適正化」の観点での見直しを提案しています。
	(4)八王子市でも年々増加傾向にあるDV、家庭崩壊、ひとり親などの課題解決を重要視してほしい。また、子どもが安心できる環境として、荷物の一時預かりのような託児所ではなく、子どもの心身の成長が保障される「公的保育」を守り拡充してほしい。	(4)2-8、2-10、2-14の記載のとおり同様の点を重視し、市民一人ひとりが安心して生活し、子どもが健やかに育つことができる社会の実現に向けた提案をしています。
	(5)(陣馬街道等)今後も、右折レーンの増設や、歩道の整備を希望します。	(5)4-9提案1の記載のとおり、渋滞解消のための道路の拡幅、歩道の整備などの提案をしています。
	(6)山間地等交通不便地域に対しての交通を確保してほしい。	(6)4-8提案2の記載のとおり同様の点を重視しています。
	(7)北西部幹線道路は中止を含めて見直すべき。	(7)今回の分科会の提言の大項目として、交通渋滞の解消を挙げています。4-9提案1では、北西部幹線道路の早期整備を交通渋滞の解消の1つの手段と捉えています。なお、経済、環境などに関するリスクアセスメントは、事業の実施に当たり行政で実施すべきものと考えます。
	(8)森林や里山の貸し出しとは具体的にどういうことか。	(8)5-10提案3、4に記載してありますが、企業の環境関連CSR(企業の社会的責任)などに活用してもらうため、維持管理はNPOが代行するなどによりおこなうものです。また、里山の保全や里山や森林を活かした環境教育などの大切さについては、6-3において具体的に提案しています。
	(9)教育・文化・芸術に予算をしっかりつけてほしい。	(9)同様の点を重視しており、適宜シートに記載しています。
	(10)企業の製造・研究開発の拠点を誘致とあるが、川口物流拠点整備構想のことか。	(10)「企業の拠点の積極誘致」は、5-1提案5に記載してありますが、川口物流拠点整備構想との直接の関連はありません。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
22	(1)市民活動団体・企業・大学・市のつながりがない状態からコミュニティカフェの開設、地域内委員会の創設、団体同士をつなげるコーディネーターの育成の案は良いと思うが、IT社会のひずみからコミュニケーションが不足し、人とひとがつながっていない現状がある。具体的にどのようなしくみで人をつなげることができると考えているのか。	(1)人と人のつながりは重要だと考えており、1-3提案7で地域住民の交流の場の設置によるコミュニティの活性化を提案しています。人をつなげるしくみとしては、1-2提案2にある地域活動への参加機会をつくるなどにより、コミュニケーションをはかっていくことを提案しています。また、コミュニティづくりや人とひとをつないでいくための具体的提案などは2-1から2-7までの記載のとおり重視しています。
	(2)「未来をつくる」子育て支援体制として、子どもの学びの場、遊びの場、やすらぎの場をつくることが必要だと思うがいかがか。	(2)子育て・子育ちに関しては、2-8から2-11までの記載のとおり同様の点を重視しています。
	(3)近隣市との連携によるボランティアポイント制度の内容がわかりにくい。また、ボランティアは自発的におこなわれ、強制もないのでポイント目的に参加するということになると趣旨が変って好ましくないのではないか。	(3)ボランティアポイント制度については、2-15で提案しています。この提案の検討の際にご意見を参考にしました。 また、ボランティア制度について、6-12では、ごみゼロのまちを目指す1つの方法として、楽しみながら多くの人が参加できる工夫の意味も含めて提案しています。
	(4)街路樹の促進を求む。	(4)中心市街地周辺の緑化推進の観点から4-4提案4に、良好な道路景観整備の観点から4-9提案2にそれぞれ記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(5)緑の多い公園整備、一日楽しめるコースの設置を求む。	(5)4-2提案2、3の記載のとおり公園という概念ではなく、河川沿川のみどりの保全・創出・活用という視点で提案しています。
	(6)中心市街地の活性化を求む。	(6)5-6の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(7)「自然エネルギー」への転換に市がより積極的に働きかけ、大学の協力も得て実現できるよう求む。	(7)5-13提案2に記載のとおり、同様の点を重視しています。また、自然エネルギーについては、6-1、6-2の記載のとおり、同様の点を重視しています。大学の協力については、その際の検討で参考にしました。
	(8)豊かな自然、豊富な人材といった八王子の魅力を活かして、子どもたちに幅広い経験をさせ、五感を使って行動できるようにすることが大切ではないか。	(8)6-10、6-11の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(9)教員も教科だけではなく、課外授業的な得意分野をもつ努力があっても良いのではないか。	(9)3-5、3-10提案2の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(10)親も育つため、わが子だけに目を向けず、広く親同士の交流や各種講修会、イベントへの参加で自分を高めることも必要ではないか。	(10)ご意見も踏まえ、3-6提案1、2、4、5、3-7提案7において「だれもが参加できる授業」に言及しました。
23	(1)教育環境の人員不足の問題を、何とか改善することはできないか。	(1)3-1提案3、5、6、3-2提案3、6、3-5提案1、8、9の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(2)猛暑対策の検討をお願いしたい。	(2)市内の全公立小・中学校へのエアコン設置が順次進んでいることから、提案には盛り込みませんでした。
24	(1)NPOなどの市民活動団体の活動支援策として、格安で貸与できるような「NPOの共同事務所」を整備してほしい。	(1)1-2提案9の記載のとおり、活動支援の視点に立って提案しています。
	(2)実現には、時間を要すると考えられるが、NPOなどの財政運営支援となる条例整備について考えてほしい。	(2)ご意見も踏まえ、1-4の記載のとおり提案しています。
	(3)八王子市の発展、活性化のために、市民や市民活動団体が活躍していくための具体的課題や目標も必要ではないか。	(3)ご意見も踏まえ、1-2から1-5までの記載のとおり提案しています。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
25	急速な高齢化の進行に対して、以下の点について検討願いたい。 (1)高齢者の医療費の窓口負担の無料化、軽減化 (2)希望者がいつでも利用、入居できるよう介護施設、特別養護老人ホームの増設 (3)高齢者の「はちバス」無料化、軽減化と運行ルートの新設、拡充(本数増など) (4)高齢者の市民センター、市民体育館、プールなどの利用料の無料化 (5)独り暮らし、二人暮らしの高齢者への見守り、緊急通報システム設置などの支援 (6)緊急時、災害時の対策 また、「医療産業育成の機能をもつ複合センター」とは、具体的にどのようなものを想定されているのか。	高齢者福祉、高齢者支援、高齢者医療については、2-12、2-14、2-22で提案しています。これらの検討の際に参考にしました。 なお、(3)については、4-8提案3の記載のとおり同様の点を重視しています。また、(6)については、4-13提案2から6までの記載のとおり同様の点を重視しています。 また、「医療産業育成の機能をもつ複合センター」とは、リハビリ介助機器開発センターのことであり、具体的には、2-23あるべき姿に記載しています。
26	(1)「幸福度」とは具体的尺度が不明である。例えば、固定資産、住民税が東京で一番安いなどと具体的に設定すべきではないか。	(1)幸福度を客観的な数値に表すことは極めて難しいと考えており、幸福度の調査・検証や市民との意見交換会などを提案しています。
	(2)施設利用料の受益者負担について、利用料の値上げを前提としているようにとれる。安い料金で安心して利用できるようにすべきではないか。	(2)1-9提案5の記載のとおり、「適正化」の観点での見直しを提案していますのでご覧ください。
	(3)地域に根ざして行動できる職員について、公務員は全市民に対し奉仕するものではないか。	(3)1-8、1-2に地域に根ざして行動できる職員について、私たちの考え方を具体的に記載していますのでご覧ください。
	(4)保育園の0才児保育や全員入所の取組みについて考えてほしい。	(4)2-8提案5で同様の点を重視しています。
	(5)老人ホーム入所希望者の高齢者が全員入所できるようにする取組みなども検討するべきではないか。	(5)高齢者福祉については、2-12で提案しています。これらの検討の際に参考にしました。
	(6)北西部幹線道路はゲリラ豪雨などで水没する恐れが大きいため見直しするべき。	(6)今回の分科会の提言の大項目として、4-9提案1の記載のとおり、北西部幹線道路の早期整備は、交通渋滞解消の手段の1つとして捉えています。なお、ご指摘のとおりゲリラ豪雨などへの防災上の対策も実施すべきとの観点から、4-12提案9にインフラ整備にあわせた水害対策の実施として提案しています。
	(7)山間地の農地では、イノシシ、サル、シカなどの被害に対する対策はどうするのか。里山の保全とあわせて検討してほしい。	(7)ご意見を踏まえ、5-10提案7に「鳥獣の農地への侵入抑制について」の項目を加えました。
	(8)みどりや湧水の保全と開発計画は両立しないと思われる。保全と開発に対する考え方も検討すべきではないか。	(8)6-3、6-8の記載のとおり、保全と開発という相反する側面を考慮し、提案しています。
	(9)先生にも少し、ゆとりができるような対策が必要ではないか。	(9)3-1提案3、5、6、3-2提案3、6、3-5提案1、8、9の記載のとおり、同様の点を重視しています。
	(10)市として、奨学金制度の充実の検討も必要ではないか。	(10)現状で高校生を対象とした市の制度や大学生を対象とした各種団体による制度があることから、提案としては盛り込みませんでした。
	(11)市内大学との産学協同の推進はどのようにおこなうのか。	(11)5-1提案7、5-3提案6に具体的に記載していますのでご覧ください。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
27	(1)次期計画策定に当たり、現在のゆめおりプランの総評価や検証といった現状分析が必要ではないか。	(1)同様の点を重視し、関係所管部へのヒアリング、検討に関わる企業などへの情報提供依頼や行政評価報告書などにより、現状分析をしながら検討を進めました。
	(2)基本計画は人口の現状が前提になっているように思われるが、次期10年間の計画期間に人口の増加はないか、しっかり検討していただきたい。人口を減少させないために、以下の提案についていかがか。 ①都心への通勤時間の短縮をはかる(新宿駅まで20分、東京駅まで30分でつなぐなど)。 ②若夫婦が住みやすい低価格住宅やこども園などを整備し共働きを支援する。子供の教育環境を充実する。 ③大学生に魅力のある住みやすい町を整備する。 ④レクレーション施設を整備する。 ⑤高齢者福祉施設の充実などをはかる。	(2) ①の「都心への通勤時間の短縮」については、検討の参考としましたが、短縮のための技術的課題などが把握できず、提案に反映していません。 ②子育て支援については、2-8の記載のとおり同様の点を重視しています。また、子どもの教育環境の充実については、3-1から3-8までの記載のとおり、同様の点を重視しており、広い視点から施策に盛り込んでいます。 ③大学生に魅力のある住みやすい町については、中心市街地活性化の視点から、5-6の記載のとおり、同様の点を重視しています。また、1-2提案10では、学生の市民活動や地域の行事への参加充実を提案し、大学生に八王子の魅力を知ってもらう第一歩となればと考えています。 ④レクレーション施設の整備については、3-11提案7の記載のとおり、同様の点を重視しています。 ⑤ 高齢者福祉については、2-12で提案しています。これらの検討の際に参考にしました。
	(3)八王子市の農業は自給農家が多く生産規模は小さい。また、期間的農業従事者は高齢化が進む一方、20歳代の従事者はほとんど無きに等しい。このような農業実態の中で、今後の目標なり、アクションを市や農家はどのようにしていくのか。 ①野菜生産の組織化、(施設化)などをはかり、また、新規就農者の確保をはかり、周年生産体系を確立する。また、自給農家とも協働して、野菜などの生産・販売組織を整備する。 ②野菜の地産地消を推進するため、直売所(道の駅を含む)の整備や地元スーパー、学校給食、地元レストランなどと契約販売を進める。 ③地域生活者・子供・生徒などの農業見学、農業体験を推進する。	(3)現状を踏まえたアクションについては、今後の発展に結び付けるため、5-8において、しくみや仕掛けなどについて提案しています。 ①5-8の記載のとおり、同様の点を重視しています。 ②5-11提案4、6や、6-11提案3の記載のとおり、同様の点を重視しています。 ③5-5提案4の記載のとおり、同様の点を重視しています。
28	(1)子どもがのびのび安全に遊べる室内遊び場を設置し、その管理や運営には、地域の人材を活用してはどうか。	(1)2-9提案3の記載のとおり同様の点を重視しています。
	(2)小中学校の特別支援の充実について検討してほしい。日野市でおこなわれているような、リソースルームを全小中学校に整備し、一人ひとりのニーズに応じた学習支援や生活支援、親支援、教材や教授法の専門支援をおこなうことはいかがか。	(2)2-8、3-2の記載のとおり、同様の点を重視しています。なお、リソースルーム(特別支援教室)の全小中学校への設置、専門支援についても、3-1提案7に記載しています。
	(3)児童福祉と教育の連携強化策として、幼稚園、保育所に特別支援療育コーディネーターを配置し、学校の特別支援教育コーディネーターと連携してはどうか。	(3)2-8、3-2提案1のとおり、同様の点を重視しています。なお、支援方法については、3-2提案6、7に記載しています。
	(4)不登校の増加、教員のうつ病、離職などへの予防策として、地域からの子どもへのサポートが不可欠である。専門的資格をもつ特別支援教育支援員やボランティアを各学校のニーズに応じて配置してはどうか。	(4)2-8の記載のとおり、同様の点を重視しています。教員のうつ病や離職など教員への心の支援については、3-1、3-2、3-5のなかで広く反映しています。

No	【市民意見の要約】	【市民会議での取扱い】
29	(1)「強い競争力を与えられる」ような優遇策(免税、低利融資、工場規制の廃止など)を提案し、企業に当市への進出のメリットを売込む姿勢が必要ではないか。	(1)ご意見も踏まえ、5-1提案5に「優遇策の再検討」を加えました。
	(2)「太陽光や風力の利用」は現状の使用電力を補うとすると、広大な土地と多くの資金が必要であり、現実的では無い。むしろ、都も考えているようなLNG火力を市内に設置して廉価な電力を確保してはどうか。	(2)6-1では自然エネルギーの活用について提案しています。ご意見はこの提案の検討の際に参考にしました。また、5-13を検討した際に、コスト面などからLNGの導入は難しいとの判断に至り、反映していません。
30	(1)幸福度ナンバーワンについて具体的に教えてほしい。	(1)1-1の記載のとおり具体的に提案しています。
	(2)みんなが担い手と書いてあるが、なぜ、行政が市民に負担を求めるのか。 (3)すでに、町会・自治会の連合会や市民センターの運営協議会もある中で、なぜ、地域内委員会といった重複するようなことをしていくのか。 (4)お互いにコミュニケーションをはかるとはどのような意味か。コミュニティカフェは本当に必要か。	(2)、(3)、(4)　1-2、1-3の記載のとおり、私たちは、すべて行政におまかせでは多様な価値観をもつ個人や団体、地域のニーズにあった施策は実現できないと考えました。実現に向け、課題解決していくためには、私たち市民も当事者として、支え合い、お互いを気遣いながら自分たちが社会をつくる主体であるとの意識が大切であり、その共助の精神が活気のあるまちづくりの基本であると考えています。
	(5)防犯カメラの設置促進については、民間でやるよりも警察主体でやってもらいたい。	(5)ご意見も踏まえ、4-14提案4で警察を担い手としました。
	(6)消防団の役割の見直しをしてもらいたい。	(6)4-11提案3の記載のとおり同様の点を重視しています。
	(7)市で24時間の健康相談を行う必要があるのか。＃0119番があるのだから、重複したサービスは無駄ではないか。	(7)ご意見を検討し、2-22の提案を見直しました。
	(8)ボランティアのポイントも他の民間のポイントとの交換について検討してはどうか。	(8)ボランティアによる新しい共助の展開については2-15で提案しています。ご意見はこの検討の際に参考にしました。
	(9)市民同士が相談できるといわれているが、相談相手はやはり専門家ではないのか。	(9)2-14では、身近にいつでも相談できる体制整備について提案しています。その検討の際にご意見を参考にしました。
	(10)男女共同参画について、本当の平等とはどのようなことを指すのか。性差を認めて尊重できればもう、そんなに力を入れる分野ではないのではないか。	(10)男女共同参画に関する取組みについては2-17の記載のとおり検討しました。ご意見はこの検討の際に参考にしました。
	(11)エネルギーの地産地消は、本当にできるのか。また、カーシェアは交通の便がよいところでできるものではないか。また、エネルギー債は国レベルの政策ではないか。	(11)自然エネルギーの活用については6-1で具体的に提案しています。地球にやさしい生活スタイルについては6-2で具体的に提案しています。これらの検討の際にご意見を参考にしました。
31	「市民活動・市民協働都市宣言」を採択することを希求する。	ご意見を踏まえ、1-2提案1の記載のとおり提案しています。
32	(1)要請のあった地域や学校に対して、学校支援コーディネーターを市の職員が1つの業務として実施していただけるとありがたい。	(1)ご意見も踏まえ、3-7提案4に「コーディネーターの専門職化」を盛り込んでいます。
	(2)ワークライフバランスの充実において重要なのは、学びの機会のような受け皿をつくることとあわせ、自分の時間をいかにつくるかということではないか。市として、市の職場の労働時間を縮減することはもちろん、民間企業に対してどのように働きかけていくべきとお考えか。	(2)ワークライフバランスの推進については、2-17提案4、3-6提案1、3-10提案1の記載のとおり、同様の点を重視しています。

～ 市民会議の経緯 ～

市民委員の募集
平成22年11月 1日～30日
・・・・・ 広報「はちおうじ」、市のＨＰ等にて市民会議委員を募集（11月1日～末まで）

↓

市民会議の発足
平成23年 1月17日
・・・・・ 市民会議委員184名により「新基本構想・基本計画素案策定市民会議」が発足　黒須市長、渡戸明星大教授、前市民会議委員による市民会議に対する期待や検討に当たっての心構えなどについて受講

↓

市政概要説明会
1月22日、30日
2月12日
・・・・・ 基本構想・基本計画検討の参考とするため、市の担当責任者による市の施策概要についての説明会に参加

↓

第1回全体会議・合同分科会
2月19日
・・・・・ 今後の市民会議全体の運営に関する基本的な方針と、各分科会の位置付けなどについて確認

↓

分科会活動がスタート！
2月下旬～
・・・・・ 市民委員が6つの分科会に分かれ、新基本構想・基本計画素案の作成に向けた具体的な検討を開始
各分科会のリーダー、サブリーダーから構成される「リーダー会議」も3月下旬からスタート

↓

市民アンケート調査の活用
5月～

新基本構想・基本計画素案「中間のまとめ」
7月10日
・・・・・ 各分科会による中間時点での計123の施策提言を取りまとめ、提言の概要を「中間のまとめ」として、広報はちおうじ特集号掲載原稿として整理

↓

「中間のまとめ」に対する市民意見公募
8月15日～31日

起草委員会がスタート！
8月下旬～
・・・・・ 新基本構想・基本計画素案の最終まとめに向けて、
リーダー会議メンバーによる「起草委員会」発足

↓

各種市民団体・企業等へのヒアリング
8月下旬～9月下旬

市議会議員との意見交換会
9月 4日
・・・・・ 「中間のまとめ」について、市議会議員との意見交換会を実施
市民会議委員12名、市議会議員15名が参加

↓

新基本構想・基本計画素案最終まとめ
・・・・・ 新基本構想・基本計画素案の最終まとめ
各分科会、リーダー会議、起草委員会など活動回数延べ232回

↓

第２回全体会議・市長報告
12月 3日
・・・・・ 市民委員による素案の最終承認の後、市長に報告
新基本構想・基本計画素案策定市民会議の解散

市民会議の構成

全体会議
全市民委員　184名
（平均年齢50.5歳）

リーダー会議
各分科会の
リーダー・サブリーダー
計12名

起草委員会
各分科会の
リーダー・サブリーダー
計12名

分科会
全市民委員　184名
※一つの分科会に所属

みんなで担う公共と協働分科会
委員数：25名（男女構成：男性19名、女性6名）

生活・共助分科会
委員数：42名（男女構成：男性31名、女性11名）

教育・学習分科会
委員数：39名（男女構成：男性21名、女性18名）

まちづくり分科会
委員数：23名（男女構成：男性23名）

産業分科会
委員数：35名（男女構成：男性32名、女性3名）

環境分科会
委員数：19名（男女構成：男性16名、女性3名）

分科会に所属していない委員：1名

市民会議委員名簿

相原　守
青木　貢
青野　良亮
朝妻　明光
浅野　里惠子
浅見　芳雄
新井　信頼
荒川　裕美
安齋　顕考
五十嵐　恒久
石尾　曠師朗
石川　ゆかり
石部　哲子
石森　崇司
石渡　ひかる
井上　雄
井上　涼
井堀　正彦
今泉　満政
今村　咲貴
岩切　成夫
岩阪　英将
岩田　博次
印南　幸子
上原　洋八
江藤　圭祐
榎本　邦美
大内　康裕
大倉　弘美
大澤　敬之
太田　一夫
大竹　治司
大貫　圭介
大福　族生
大見　照子
大屋　翔太郎
大山　健三
□岡崎　理香
○岡田　静子
奥田　周平
奥山　清
奥山　真人
越智　めぐみ
折井　誠司
貝嶋　康文
笠川　芳久
風野　康男
加藤　詠二
◇加藤　晋次郎
加藤　実
金指　征治
金山　滋美
金子　亜希子
鹿又　ワカ
亀山　良三
河合　輝昭
川那部　隆夫
北川　寧楽路
北原　勲
金　真弓
草柳　真澄
◇倉田　貴文
栗原　勝
黒沢　正明
桑原　由美
源嶋　盛信
小磯　由美子
小島　廣夫
小西　拓
小西　知子
古怒田　英男
小室　裕美
近藤　赳弘
齋藤　憲
齋藤　健
榊間　いつみ
酒巻　由佳
櫻田　徳仁
佐々木　彰代
佐藤　康司
佐藤　隆子
沢尻　記子
宍倉　孝之
◇篠原　勝久
進藤　丕
菅原　彬徳
杉原　義得
杉山　浩一
杉山　哲三
須崎　智佳子
鈴木　加純
鈴木　征治
鈴木　亨
清　貴幸
◇関谷　真一
曽我　貴美子
高田　京子
高野　重春
高橋　豪
高橋　清一
滝島　徳久
田代　光治
夛田　靖史
田中　猛
田中　俊光
田中　昌子
田中　竜太郎
谷村　伸一
田村　明彦
千種　康民
辻　誠一郎
辻村　千枝子
堤　直樹
手島　満雄
◇土肥　健一
土居　幸仁
堂坂　日出夫
導望　勝利
富永　一夫
豊田　慎吾
内藤　康男
中川　和郎
長沢　和男
中島　健治
中島　英生
◇中瀬　慎
中村　文子
成瀬　正吉
縄井　千乃
◇新倉　栄一郎
新堀　和子
野口　雄史
◇野崎　良一
◎野牧　宏治
野村　眞祐
橋本　茂
橋山　晃子
長谷川　敦士
林　翔
春本　高夫
久田　裕一
平川　幹浩
平島　耕太
平野　雄司
廣川　英資
舩木　勇人
古川　豊光
振屋　敏人
逸見　由紀江
堀井　弘喜
堀内　進一
堀上　美登里
前田　佳子
真崎　亮
増田　昌彦
松井　浩子
松田　礼治
松本　作造
松山　龍之介
間宮　章
三澤　律子
村石　雅紀
村里　亮
森田　健司
盛田　孝
盛田　連司
守屋　一洋
森谷　良樹
◇八木　正広
山川　徹
八巻　恵美子
山岸　彰雄
山﨑　領太郎
山田　正夫
祐乗坊　進
湯澤　勉
吉永　鴻一
吉野　辰也
吉見　一雄
若杉　和倫
渡邉　和樹
渡辺　恵一
渡邉　文雄

（50音順
敬省略）

※　名前の前に記号を付してある委員は「リーダー会議」委員

◎：市民会議代表（兼起草委員会委員）　○：市民会議副代表（兼起草委員会委員）

□：起草委員会代表（兼起草委員会委員）　◇：起草委員会委員

※　この他に辞退者として名前の掲載を希望しない方を含め、184名で発足しました。